

教育目標
ひらこう世界へ
のびようともに
つくろう夢を
こえよう自分を

紙面から

- 1 新教育長紹介・特別支援教育・コラム
- 2 教科書採択・CRT・サッカーボール寄贈
- 3 ひのつしがんばっています
- 4 郷土資料館特別展示・他

新・教育長が就任

加島教育長の任期満了に伴い8月3日に開催された第1回教育委員会臨時会において、新たに米田裕治(よねだ ひろはる)氏が教育長に任命されました。任期は8月3日から4年間です。



(庶務課)

〔略歴〕
昭和56年4月 日野市役所入所
平成15年2月 企画調整課長
平成19年2月 子ども部長
平成21年7月 教育部長などを歴任。

通常学級での特別支援教育のスタンダード

〇特別支援教育は

これまでの心身障害教育(国では特殊教育)の対象の児童・生徒ばかりでなく、通常学級に在籍している、発達障害の児童・生徒も含めて支援を進めていくものです。

〇市のこれまでの取り組みと「ひのスタンダード」出版の経緯

日野市では、平成18年度からさまざまな体制を整備して取り組んできました。それから4年が経ち、発達障害への理解や、特別支援教育の意義などが、日野市内の全ての学校の先生方にしっかりと受け止められ、さらなる推進に向けて取り組む段階にきています。

ここまで進めてきた中ではつきりしてきたことは、特別支援教育の視点は、全ての児童・生徒にとっても大変効果的であるということ。その思いにた



〇ひのスタンダードは

市内の小・中学校全校、約650名が取り組んだ、指導方法や教材の工夫、教室環境の工夫

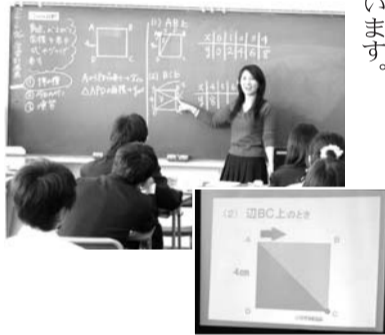
「ひのスタンダード」

つたとき、日野市の全ての小・中学校で進めるべき特別支援教育の形をしっかりと作っていくことが重要であることに気付かれました。そして、市内全ての先生方が、自分の持っているいろいろなアイデアを出し合い、共有していこうということになりました。

これが「ひのスタンダード」です。そして、ここに一冊の書籍として完成し、全国の書店で販売されることになりました。

など、ユニバーサルデザインの視点で誰でもわかりやすい授業となるような工夫についての実践例が掲載され、教材や指導における情報の共有化が図られることとなります。

本書では、指導方法の実践例の一つとして、中学校の数学の例を挙げています。点が動いて図形の面積が変化する問題では、図形の苦手な生徒は、図形を想像して答えを導き出すことは非常に困難です。そこで、黒板と共にICT機器を活用して視覚的に確認できるように工夫しています。



発達障害を抱えた児童・生徒は、変化への対応や外部の刺激に敏感であるといった特徴があります。そこで、学習環境の工夫が大切になってきます。本書では、学習環境の工夫についても数多くの実践例を紹介しています。

例えば、授業に集中させるために、黒板脇の掲示板にカーテンを設置して、授業中は、授業に関係のない掲示物を隠してしまう工夫を紹介しています。



また、本書には、チェックリストが掲載されており、各学校や先生自身が特別支援教育の視点に沿った実践を行っているか確かめることができます。チェックリストを活用することで、各学校の課題を明らかにして、特別支援教育を進めていくことができます。

〇今後の取り組みは

通常学級で支援を必要とする児童・生徒に有効な手だては、全ての児童・生徒にも有効な手だてであるというユニバーサルデザインの考えに基づいた特別支援教育を市内小・中学校に広め、定着させるために本書を市内小・中学校の全教員に配りました。教員研修等を通じて、本書の趣旨、内容等を伝え、「ひのスタンダード」の定着を図りながら、日野市の特別支援教育の推進を図ることとしています。

この本は、学校関係者はかりでなく、ぜひ、多くの方に読んでいただき、特別支援教育や発達障害等の理解を深めていただきたいと思えます。

ユニバーサル

日野市の特別支援教育の事業の一つに、通常学級に在籍し、発達障害等により学習につまずいていたり、苦手意識をもっていたりする児童に対し、ニーズに応じた支援としてリソースルームを設置しています。

今年度は、昨年度実施の14校から2校増え、小学校16校で事業を実施しています。リソースルームでは、主に国語と算数で、週1時間ないし2時間程度、授業中に別室(リソースルーム)にて個別指導を行います。

週にわずかな時間ですが、わかった、できたなど、やればできるという達成感を体感することが重要です。このような体験の積み重ねから、やる気や学習意欲の向上などに結びつけていきます。

(特別支援教育推進チーム)



特別支援教育講演会を開催

平成19年度から始まった特別支援教育を広く市民に理解していただくために、特別支援教育講演会を実施します。

今回のテーマは、「発達障害児の課題に家庭でどう取り組むか」と題して、明星大学人文学部竹内康二専任講師にご講演いただきます。

講演会に参加希望の方は、事前にお申込みください。
*お車でのご来校はご遠慮ください。
◇申込み先・特別支援教育推進チーム(内線5261)

〔日時〕 11月13日(土) 午後1時00分から3時00分まで
【場所】 平山中学校 食堂 (平山4・21・3)

子を思う親心

日野市公立中学校長 尾形 育



家庭教育はすべての教育の原点であると言われる。この教育つまり子育てによって子どもたちは生きるための基礎的な資質や能力を養い、人格を形成していきます。親が子を思う慈しみの心は世界共通であり最も崇高なものであると思います。アメリカインディアンの教育の原点であるその言葉の一部の中で「心が寛大な人の中で育った子は我慢強くなります。●励ましを受けて育った子は自信を持ちます。●ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります。●公明正大な中で育った子は正義心を持ちます。この等々」と書かれています。この文面の原点は子どもの環境づくり(特に精神的な環境)によって子どもの成長がなされることを示唆しているのではないのでしょうか?子育ての原点は何処でも同じです。ご家庭でも学校でも子どもたちを育てる環境作りが我々大人の大きな務めだと考えています。家庭、地域、学校の連携の中で私たち教師は、温かい目で子どもたちの成長を願ひ、よりよい環境作りを目指していきたいと考えています。